

陸軍ノ消耗ハ十七、八億見當能ハ貯蓄ナリ

右ニ依リ外相ハ戦線ノ縮少ハ必スシモ經費ノ縮少トナラサル旨瞭

解ス

以上ヲ以テ戦線縮少案ハ否決セラレ修文スルコトトナル

本件議中從來懇談會席上殆ト發言スルコトナキ總理モ發言シ戦

線縮少反對ナル旨述ヘタリ

九ニ就テ

外相 自分ハ勝手ニ條約ヲ改定ル様ナコトハセヌ

極秘

對獨伊蘇交涉案要綱

(昭和^二六^三)

決定

一、蘇聯ヲシテ所謂「リッペントロップ」腹案ヲ受諾セ

シメ右ニ依リ同國ヲシテ英國打到ニツキ日獨

伊ノ政策ニ同調セシムルト共ニ日、蘇國交ノ調

整ヲ期ス

二、日、蘇國交調整條件ハ大体左記ニ據ル

(一)獨逸ノ仲介ニ依リ北樺太ヲ賣却セシム

若シ蘇聯カ右ニ不同意ノ際ハ北樺太利

權ヲ有償放棄スル代キニ向テ五ヶ年間二百五十萬噸ノ石油供給ヲ約サシム尤モ之カ爲要スレハ我方ニ於テ北樺太ニ於ケル原油増産ヲ援助スルモノトス

右兩者ノ何レニ依ルヘキカハ事態如何ニ依リ決定ス

(一)帝國ハ蘇聯ノ新疆外蒙ニ於ケル地位ヲ

了承シテ蘇聯ハ帝國ノ北支蒙疆ニ於ケル地位ヲ了承ス新疆外蒙ト蘇聯トノ關係ハ蘇支間ニ於テ取極メシムモノトス

(二)蘇聯ヲシテ援蔣行爲ヲ放棄セシム

(三)滿蘇外蒙間ニ速クニ國境劃定及紛爭

處理委員會ヲ設置ス

(四)漁業交渉ハ建川提案(委員會案)ニ依

リ妥結ニ導ク尤モ漁業權ハ日蘇國

交調整上必要ナルハ拋棄シテ差支ナシ

次日、獨通商ノ爲相當數量ノ貨物輸送ニ
必要ナル配車ヲ爲シ且運賃ノ割引ヲ約

セシム

三、帝國ハ大東亞共榮圈地帯ニ對シ政治的指
導者ノ地位ヲ台メ秩序維持ノ責任ヲ負フ
右地帯居住民族ハ獨立ヲ維持セシメ又ハ獨
立セシムルヲ原則トスルモ現ニ英、佛、蘭、葡等

ノ屬領タル地方ニシテ獨立ノ能力ナキ民族ニ付
テハ各其能力ニ應シ出來得ル限リノ自治
ヲ許與シ我ニ於テ其統治指導ノ責ニ任ス
經濟的ニハ帝國ハ右地帯内ニ於ケル國防資
源ニ付優先的地位ヲ留保スルモ其他ノ一般
通商企業ニ付テハ他ノ經濟圈ト相互的ニ門
戶開放機會均等主義ヲ適用ス

四、世界ヲ大東亞圈、歐洲圈（アフリカヲ含ム）

米州圈、蘇聯圈（印度、イランヲ含む）四大
圈トシ、英國ニ濠洲及「エトゾ」ランドヲ殘シ概
不和蘭待遇遇トス。帝國ハ戰後ノ媾和會議
ニ於テ之ヲ妥貝現ヲ主張ス

五日本ハ極カ米國ノ參戰ヲ不可能ナラシムル趣
旨ヲ以テスル行動施策ニ付獨逸當局ト
ノ諒解ヲ遂ケ置クコトトス

六獨伊特ニ独ハ蘇聯ヲ牽制シ萬一日滿兩
國ヲ攻撃スルカ如キ場合ニハ獨伊ハ直チニ蘇
聯ヲ攻撃ス

七日本カ歐洲戰爭ニ參加スル場合ニハ獨伊
等味方諸國間ニ單獨不媾和協定ヲ締
結ス

八支那全面和平ノ促進ニ就テハ向獨ト懇談ノ途ノ
一速ニ海軍準備ヲ完成シ陸軍、支那ニ
於テ戰線ヲ思ヒ切ツテ縮少不能速不極力
日本ノ軍備充實ニ付援助ヲ日本ハ速ニ

對原料及食糧ノ供給ニ努ム

九、松岡外相ハ波歐ノ上独、伊、蘇各國政府ト
交渉シ前記要領ノ貫徹ニ努ムクシ要スレハ
條約ヲ締結ス

リッパントロップ「腹案」内容

日、独、伊ヲ一方トシ、ソ聯邦ヲ他方トスル取極
ヲ作成シ

一、ソ聯ハ戦争防止、平和ノ迅速回復ノ意味

ニ於テ三國條約ノ趣旨ニ同調スルコトヲ表明シ

二、ソ聯ハ歐亞ノ新秩序ニ付テハ独、伊及日

ノ指導的地位ヲ承認シ三國側ハソ聯ノ

領土尊重ヲ約シ

三三國及ソ聯ハ各々他方ヲ敵トスル國家ヲ援
助シヌハ斯ノ如キ國家群ニ加ハラサルコトヲ欲ス
右ノ外日徳伊ソ何レモ將來ノ勢力範圍トシテ
日本ニハ南洋ソ聯ニハイラン印度方面
獨ニハ中央アフリカ伊ニハ北アフリカ
ヲ承認スル旨ノ秘密ヲ解ラ遂ク

二月五日第九回連絡懇談會

「タイ」佛印國境紛争調停要領ノ件

一、出席者

總理、平沼、陸海外三相、參謀總長、軍令部次長、

富田書記官長、陸海軍務局長、南洋局長

二、南洋局長所要ノ説明ヲナシ次テ審議ス

三、左記審議ノ結果別冊奏、佛印國境紛争調停要領ヲ決定ス

四、一ノ「佛印ヨリ」ヲ「佛國ヨリ」ニ改ム

之、三ノ外ノ次ニ「トシテ」奏、佛印兩國ニ對シ第三國トノ間ニ軍

事の政治的協力ニ關スル協定ヲナササルコトヲ約セシム」ヲ入ル
本項ニ於テ經濟的協力ヲ入レサリシハ現ニ進行中ナルカ故ナリ